

しかし、その人はこれを聞いて非常に悩んだ。大変な金持ちだったからである。イエスは議員が非常に悩むのを見て、言われた。「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通るほうがまだ易しい。」これを聞いた人々が、「それでは、誰が救われることができるでしょう」と言うと、イエスは、「人にはできないことも、神にはできる」と言われた。(ルカ18:23~27)

ある議員が主イエスに、「善い先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」と尋ねた。「議員」とは、71名で構成されるイスラエル最高法院の議員である。彼は地位も名声も財産もある有力者である。ところが、彼には満たされないものがあり、へりくだって、主イエスに「善い先生」と呼びかけ、永遠の命を得るためには何をすべきかと問うた。主イエスは、彼の心の内を見抜かれ、まず「なぜ、私を『善い』と言うのか。神おひとりのほかに善い者は誰もいない」と、冷や水を浴びせるように応じられた。そして、「『姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証するな、父と母を敬え』という戒めをあなたは知っているはずだ」と、モーセの十戒の人間に関する戒めを知っていようと言われた。主イエスは、永遠の命を受け継ぐために律法を守れなどと言われたことはない。議員の振る舞いと服装を見て、律法を持ち出してみた。すると案の定、彼は「そういうことはみな、少年の頃から守ってきました」と答えた。彼は子どもの頃から、戒めを守る良い人であり、裕福な生活をし、今や、議員にもなっている。主イエスは、恵まれていたが、自己中心で生の充足がなく、心に空洞のある彼に、「あなたに欠けているものがまだ一つある。持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に宝を積むことになる。それから、私に従いなさい」と言われた。彼は、これを聞いて非常に悩んだ。大変な金持ちだったからである。マルコ、マタイ福音書は、悩みながら、肩を落として主イエスの前から立ち去った議員の後ろ姿を見た後で、この言葉を言われたと記している。

主イエスは、「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通るほうがまだ易しい」と言われた。当時、信仰深い人が神の祝福に与り、豊かな生活が約束され、神の国に入ることができると信じられていた。主イエスの言葉は、当時の常識をひっくり返すような言葉であった。金持ちが神の国に入るのは、らくだが針の穴を通るより難しいという主イエスの言葉を聞いた人々が、「それでは、誰が救われることができるでしょう」と言い合った。彼らにとっては当然の疑問であった。その疑問に対し、主イエスは、「人にはできないことも、神にはできる」と言われた。すると、ペトロが「このとおり、私たちは自分の物をすべて捨てて、あなたに従って参りました」と応じた。マタイ福音書には、「では、私たちは何をいただけるでしょうか」と、彼らしい言葉を続けたと書いている。主イエスは、神の国のために、家族を捨てた者は、何倍もの報いを受け、来るべき世では永遠の命を受けると約束された。

この言葉を下記のように受け止めていいのではないか。一つは、全てを貧しい者に分けてやりなさいと議員に言うことは、永遠の命を受け継ぐとは、律法に従い、自分の生活を正しく守ることではなく、苦しむ隣人の傍に寄り添い、隣人と分かち合って生きることであるという諭しである。そこに、生の充実がある。もう一つは、隣人のために全てを献げる生き方は人にはとてもできないが、神は必要に応じて、献げる心へと導いてくださる。そこに、神が共にいる真の解放がある。